

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	AMACLM3147-J1
授業科目名	ユニット型臨床臓器別講義		
担当教員氏名	◎首藤太一（教務委員長） 各コースの担当教員（別紙 学習ガイド参照）		
開講年度・学期	2025	曜日・時限	その他
授業形態	講義		
科目分類			
配当年次	4年	単位数	19.2

【シラバス情報】

授業概要	<p>モデルコアカリキュラムに記載のある内容を中心に、臨床実習前に習得すべき各臓器の構造、機能、症候、検査法および治療法について学習すること目的としている。</p> <p>臨床臓器別講義では、内科、外科等の講座毎ではなく消化器、循環器、内分泌・代謝等の臓器別のコースを複数の講座で横断的に統合して講義を行っている。社会医学や法医学の視点から社会における医療の役割についても本コースで学習する。また、PBL /TBL 教育を取り入れることで、“知っている知識” から臨床の現場で”活用できる知識”へ昇華を目指す。</p> <p>さまざまな疾患の病態生理から医療面接、診断そして検査、治療までを系統的に学習し、各領域の最先端の研究や最新のEBMを学習することで、全人的に患者を評価しケアを行うための基本的臨床能力の獲得を目指す。</p>
到達目標	<p>医学知識と問題対応能力</p> <p>①各器官の正常な構造・機能とその成立・維持に関わる情報伝達機構を説明できる。病気の発症と進展に関わる病因・病態生理を説明できる</p> <p>②モデルコアカリキュラムに記載のある主な疾患については病院、病態生理のみならず、症候と診断、治療法についても理解することができる。各分野の知識を統合し、症候・病態から疾患への適切な臨床推論を行うことができる</p> <p>③社会医学領域の基礎的知識を有し、関連する法則や理論を説明することができる。</p> <p>④生命科学、行動科学などの関連知識をもとに症状・疾患を理解、説明することができる</p> <p>診療技能と患者ケア</p> <p>①診療に必要な病歴を構成する要素を提示できる。身体所見から得られる情報を病態を踏まえて説明できる。</p> <p>②主な症候の鑑別診断リストを挙げることができる。</p> <p>③提示された臨床事例に対して臨床推論、判断、治療計画の立案を行うことができる。</p> <p>④臨床手技を行う適応と禁忌を挙げ、基本的な手技についての実施方法を述べることができる。</p> <p>医療の質と安全管理</p> <p>①医療の質と患者安全確保のための基礎知識を説明できる。一般的な医療事故の発生のメカニズムと防止策を説明できる。</p> <p>科学的探究</p> <p>①提示された課題について図書館およびデータベースを利用して関連する文献の収集を適切に行うことができる。</p> <p>②事例学習を通じて、教科書・論文等から最新の情報を検索・整理統合し、疾患の理解・診断・治療にの理解の深化につなげることができる。</p> <p>生涯にわたって共に学ぶ姿勢</p> <p>①生涯学習の重要性を説明できる。各分野における国内外の最先端の研究について学び、生涯にわたる継続的学習に必要な情報を収集できる。</p> <p>②同級生とのグループ学習において、自分の考えをメンバーに向けて提示することができる。また、自分の考えに対する他のメンバーからの指摘や意見を受け入れ、尊重することができる。</p> <p>プロフェッショナリズム</p> <p>①最新・最善の医療の提供を社会から必要とされていることを理解できる。膨大な医学知識の中から専門的な知識を入手でき、問題解決型の学習を行うことができる</p> <p>②規則的な生活習慣、時間管理を行うことができ、他者に対して感謝と敬意を払うことができる。</p>

授業内容	Moodle 上の各コースの日程表参照
事前・事後学習の内容	Moodle 上の各コースの事前・事後学習や参考資料を参照
成績評価方法	筆記試験を各コース毎に行います。 総合結果 60%未満の点数もしくは各コース 60%未満の点数のとき再試験を行うが、不合格コース（欠席コース含む）が 10 コース以上あった場合、コース再試験を受けることができません。体調不良による試験欠席は、診断書を添え、「欠席届」・「追試願」を試験日より 1 週間以内に学務課へ提出してください。
履修上の注意	やむを得ない理由による欠席を除き、各科目の講義は 2/3 以上出席しなければ、当該科目の試験を受けることが出来ない。PBL においては実習中の態度も評価対象であり、学修態度が著しく悪い時は減点の対象となる場合がある。
教科書	Moodle 上の各講座の教材を参照
参考文献	Moodle 上の各講座の教材を参照
オフィスアワー	9:00-17:00（診療や出張、研究等に対応できない場合があるので、急用でない限り事前にアポイントメントをとる事）
教員への連絡方法	学務課 (gr-a-gakumu-med@omu.ac.jp)
その他	<p>医療系大学間共用試験実施機構が行う共用試験（CBT、OSCE）で問われる内容を含め、間もなく始まる参加型臨床実習に必要な基礎知識となります。今後、国家試験、研修医そして医師になっても必要な知識の習得をする大切な講義です。また、一部では各コースでの最先端の話題に触れることになり、「科学的探究心」を培うことにもつながります。</p> <p>● コアカリキュラムへの対応</p> <p>H28（旧）： A-6 医療の質と安全の管理 B のすべて 社会と医学・医療 D のすべて 人体各器官の正常構造と機能、病態、診断、治療 E のすべて 全身におよぶ生理的变化、病態、診断、治療 F-1 症候・病態からのアプローチ F-2 基本的診療知識</p> <p>R4（新）： PR のすべて プロフェッショナリズム 信頼 思いやり 教養 生命倫理 GE のすべて 総合的に患者・生活者をみる姿勢 全人的、地域、人生、社会の視点とアプローチ</p> <p>PS-02 人体各器官の正常構造と機能、病態、診断、治療 IT-01 情報・科学技術に向き合うための倫理観とルール IT-02 医療とそれを取り巻く社会に必要な情報・科学技術の原理 CS のすべて 患者ケアのための診療技能 患者の情報収集 患者情報の統合、分析と評価、診療計画 治療を含む対応の実施 医療の質と患者安全 IP のすべて 多職種連携能力 連携の基盤 協働実践 S0 のすべて 社会における医療の役割の理解 社会保障 疫学・医学統計 法医学 社会の構造や変化から捉える医療 国内外の視点から捉える医療 社会科学の視点から捉える医療 別表 1、2、3、5、6、7</p> <p>● 該当するコンピテンスおよびマイルストーンへの対応</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. プロフェッショナリズム（智・仁・勇） level2 2. 医学知識と問題対応能力（智・仁・勇） level1 3. 診療技能と患者ケア（智・仁・勇） level1 6. 医療の質と安全の管理（仁） level2 8. 科学的探究（智） level2 9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢（智・仁・勇） level2

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	AMACLM3148-J4
授業科目名	臨床スターター実習		
担当教員氏名	<input type="checkbox"/> 各臨床診療科教員および医師 <input type="checkbox"/> 非常勤講師 新藤 光郎（南大阪病院教育研修センター長） 池邊 孝（東住吉森本病院 副院長 兼 救急・総合診療センター長） 谷口 恭（太融寺町谷口医院 院長） 竹中 裕昭（竹中医院 院長） 森村 美奈（なにわ生野病院 婦人科） 則岡 直樹（のりおかクリニック 院長） 衣畑 成紀（阪神野田駅前ファミリークリニック 院長）		
開講年度・学期	2025	曜日・時限	その他
授業形態	混合		
科目分類			
配当年次	4年	単位数	12.4

【シラバス情報】

授業概要	臨床スターター実習では、診療参加型臨床実習（Clinical Clerkships : CC）開始前までに修得しておくべき医学的知識をより実践的に活用できるよう講義、シミュレーター実習など活用し、小人数で知識を実際に応用して学習する機会を盛り込むようにプログラムされている。
到達目標	<p>《一般目標》 診療参加型臨床実習に必要な態度・技能・知識を習得する。</p> <p>《到達目標》</p> <p>(1) 診察技法 以下の項目の要点を説明して模擬患者もしくはシミュレーターで実施できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療面接 2) 全身状態の把握 3) バイタルサインの測定 4) 頭頸部診察 5) 胸部診察 6) 腹部診察 7) 神経診察 8) 四肢と脊柱 9) 救急 <p>(2) 治療手技 以下の手技の要点を説明して実施できる（一部はシミュレーター）。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 簡単な診察器具の使用（聴診器、打腱器、血圧計、舌圧子、眼底鏡、耳鏡、心電図、エコー） 2) 採血、注射、点滴 3) 縫合結紮 4) 手洗い、ガウンテクニック 5) 救急蘇生、BLS、気道確保、人工呼吸法、体外心臓マッサージ法 6) 感染対策 <p>(3) 態度 臨床実習に必要な態度・マナーについて説明し実施できる。</p>
授業内容	診療参加型臨床実習に参加する学生に必要とされる技能と態度の習得を目的とする。具体的には、共用試験（Objective Structured Clinical Examination : OSCE）に準じ、医療面接、全身状態とバイタルサイン、頭頸部、胸部、腹部、神経、四肢と脊柱、基本的臨床手技、救急、感染症の各分野を専門医師の指導のもとに学習する。また、医療面接実習においては、学習者同士に留まらず、“患者”を役割演技する模擬患者にも参加していただき、実践的な学習、患者目線からのフィードバックが受けられるようになっている。その他、採血実習や超音波実習では、シミュレーター実習の後、医師の指導のもと学習者同士での実習へと段階的に進めていく。 ※臨床スターター実習時間割の詳細については別紙を参照

事前・事後学習の内容	臨床スターター実習では、実習での学習成果向上のために e-learning システム (Moodle) を用いた事前学習システムを導入している。具体的には、学習者は実習前に共用試験 OSCE 教育・学習用 DVD を視聴し、内容の理解度を e-learning システム (Moodle) を用いた小テストを用いて確認する事ができるようになっている。また、事後学習として修了テストが用意され、Moodle を用いて試験を受けることができる。
成績評価方法	小テストおよびその他の授業内評価をもとに評価を行う。
履修上の注意	特になし
教科書	OSCE 学習者用資料 共用試験 OSCE 教育・学習用 DVD 人体部分模型、シミュレーター、診察器具、医療機器 学生同士のロールプレイ、模擬患者を交えたロールプレイ
参考文献	Moodle 上の各動画
オフィスアワー	9:00-17:00
教員への連絡方法	学務課 (gr-a-gakumu-med@omu.ac.jp)
その他	<p>医師に求められる資質として、知識、技能、態度の3つがよく挙げられます。本コースでは、これまでの知識重視、講義中心の学習形態から、技能や態度重視な学習形態に変わっていきます。医師としての基盤が萌芽される重要な実習期間ですので、来るべき共用試験 CBT、OSCE に合格する事に留まらず、医師として働く自分をしっかりと意識して参加してもらいたいと思います。</p> <p>● コアカリキュラムへの対応</p> <p>A 医師として求められる基本的な資質・能力(プロフェッショナリズム、医学知識と問題対応能力、診療技能と患者ケア、コミュニケーション能力、医療の質と安全の管理、生涯にわたって共に学ぶ姿勢)</p> <p>F 診療の基本 (基本的診療知識、基本的診療技能)</p> <p>G 臨床実習 (基本的臨床手技)</p> <p>● 当するコンピテンスおよびマイルストーンへの対応</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. プロフェッショナリズム (智・仁・勇) level2 2. 医学知識と問題対応能力 (智・仁・勇) level2 3. 診療技能と患者ケア (智・仁・勇) level2 4. コミュニケーション能力 (智・仁・勇) level3 7. 社会における医療の実践と大阪住民の幸福に貢献する力 (智・仁・勇) level3 8. 科学的探究 (智) level3 9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢 (智・仁・勇) level3 <p>当科目の習得 (見込みを含む) は、臨床実習前 OSCE の受験資格として共用試験実施評価機構が定めている。</p>

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	AMACLM3149-J1
授業科目名	プライマリケア医学		
担当教員氏名	教務委員会 外来診療学 / 家庭医療学：医学部同窓会依頼医師（非常勤講師） 板金 広（いたがねファミリークリニック 院長） 奥 知久（おく内科・在宅クリニック 院長） 佐田 竜一（亀田総合病院総合内科）小林 正宜（葛西医院 院長）		
開講年度・学期	2025	曜日・時限	その他
授業形態	講義		
科目分類			
配当年次	4年	単位数	2.1

【シラバス情報】

授業概要	<p>プライマリケアとは、家族及び地域という枠組みの中で、緊急の場合の対応から健康診断の結果についての相談まで幅広く行う医療のことである。本コースでは、診療参加型臨床実習（Clinical Clerkships：CC）開始前までに修得しておくべきプライマリケアに必要な知識を包括的かつ実践的に活用できるよう、プライマリケアの最前線を担う医師が中心になり行われる。具体的には、全体講義ならびに小グループによる問題基盤型学習（Problem Based Learning：PBL）、症例基盤型学習を実施し課題探求・解決能力の身につける。</p>
到達目標	<p>《一般目標》 プライマリケアに必要な態度・知識、問題解決能力を習得する。 自分の力で課題を発見し、自己学習によってそれを解決するための能力を身につける</p> <p>《到達目標》</p> <p>(1) 態度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) プライマリケアに必要な態度・マナーについて説明し実施できる。 2) プライマリケアの必要性を理解し、説明できる。 3) 地域医療連携、機能分担について説明できる。 <p>(2) 知識</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 経験すべき主な症候・病態の原因、分類、診断と治療の概略を発達、成長、加齢ならびに性別と関連付けて述べる事が出来る。 ショック、発熱、けいれん、意識障害・失神、チアノーゼ、脱水、全身倦怠感、肥満・やせ、黄疸、発疹、貧血、出血傾向、リンパ節腫脹、浮腫、動悸、胸水、胸痛、呼吸困難、痰・咳、血痰・喀血、めまい、頭痛、運動麻痺、腹痛、悪心・嘔吐、嚥下困難・障害、食思不振、便秘・下痢、吐血・下血、腹部膨満・腫瘤、蛋白尿、血尿、尿量・排尿の異常、月経異常、関節痛・関節腫脹、腰背部痛 2) 得られた情報をもとに、その症例の問題点を抽出できる 3) 医療安全管理について説明できる。 4) 代替医療（東洋医学を含む）について説明できる。 5) Evidenced Based Medicine（EBM）について説明できる。 6) 医学文献を検索することができる。 <p>(3) 問題解決能力</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 自学自習により情報を収集することができる。 2) 科学的根拠に基づいた論理的思考を身につける。 3) プレゼンテーション技能およびコミュニケーション技能を身に付ける。 4) 問題点を説明できる。 5) 問題解決のための方策を説明できる。
授業内容	<p>大学病院や大規模総合病院では経験することが少ない common disease に対するプライマリケアについて症候学の観点から学習する。つまり、“病院医療”とは異なった“地域医療”の目線から、疾患の病態生、診断そして治療までを系統的に学習することを目的としている。また、グループ学習で行うため、将来のチーム医療に欠かすことのできないコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を向上の習得も目指す。</p> <p>また、医療安全、医学文献検索、代替医療（東洋医学を含む）についても実践的に学習できる内容を盛り込んでいる。</p>
事前・事後学習の内容	臓器別講義で修得した内容について復習しておく。

成績評価方法	すべての講義への出席を必須とする。
履修上の注意	特になし
教科書	スライド、症例提示
参考文献	特になし
オフィスアワー	9:00-17:00
教員への連絡方法	学務課 (gr-a-gakumu-med@omu.ac.jp)
その他	<p>本コースでは、これまで臓器別に学習してきた疾患概念を症候学別に捉えなおし、より実践的な力を身につけることを目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● コアカリキュラムへの対応 <p>H28(旧) : A 医師として求められる基本的な資質・能力 (医師としての責務と裁量権、医学的知識と問題対応能力、学修の在り方、チーム医療の実践、社会における医療の実践、科学的探究、生涯にわたって共に学ぶ姿勢)</p> <p>F 診療の基本 (症候・病態からのアプローチ、基本的診療知識)</p> <p>R4 (新) :</p> <p>PR-01, 02, 03, 04 GE-02 LL-01, 02 PS-01, 02, 03 CS-01, 02, 03 IP-01, 02</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 該当するコンピテンスおよびマイルストーンへの対応 <ol style="list-style-type: none"> 2. 医学知識と問題対応能力 (智・仁・勇) level1 3. 診療技能と患者ケア (智・仁・勇) level1 7. 社会における医療の実践と大阪住民の幸福に貢献する力 (智・仁・勇) level2

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	-
授業科目名	漢方医学入門		
担当教員氏名	◎河邊 讓治（核医学） 柳原 茂人（近畿大学） 森村 美奈（なにわ生野病院） 中本 佳代子（大阪漢方医学振興財団附属診療所）		
開講年度・学期	2025	曜日・時限	その他
授業形態	講義		
科目分類			
配当年次	4年	単位数	

【シラバス情報】

授業概要	西洋医学とは異なる医学体系である漢方医学の概略を学ぶコースである。二千年以上の伝統がある漢方医学に触れ、西洋医学とは違った視点の臨床診療に役立つ診断法、薬剤があることを学ぶのが目的である。
到達目標	漢方医学の成り立ちがわかるようになる。 漢方医学と西洋医学の大きな違いを理解し、言及できる。 漢方薬に用いられる代表的生薬について名称や働き、副作用について言及できる。 代表的漢方薬と処方すべき病態について理解し言及できる。

授業内容	○漢方臓腑論（五臓六腑の概念と皮膚科漢方症例、漢方における副作用等） ○漢方医学総論（陰陽気血水などベースとなる考え方）疾病の考え方（虚実について）と具体的疾患（気滞・瘀血）の診断治療 ○婦人科漢方を中心に（三大漢方婦人薬の発想からの臨床応用について） ○実臨床に役に立つ弁証と治方（舌診・脈診/生薬について、を含む）
事前・事後学習の内容	河邊の講義に関しては、講義の1週間前までに授業で用いるレジメの pdf を moodle で告知するので授業までに準備すること。

成績評価方法	出席を重視して評価（4年次は小テストを行う場合もあり）
履修上の注意	医学部規則により、原則すべての実習に参加しない限り、単位認定されない。 学修態度が著しく悪い時、その授業への参加を認めないため、不合格になる場合がある。
教科書	スライド、プリント、pdf 等
参考文献	特になし
オフィスアワー	9:00-17:00
教員への連絡方法	学務課 (gr-a-gakumu-med@omu.ac.jp)
その他	とにかく漢方に興味を持ってもらいたい。漢方を知ると臨床医として治療の幅が広がる。 H28(旧)：A 医師として求められる基本的な資質・能力（医師としての責務と裁量権、医学的知識と問題対応能力、学修の在り方、チーム医療の実践、社会における医療の実践、科学的探究、生涯にわたって共に学ぶ姿勢） F 診療の基本（症候・病態からのアプローチ、基本的診療知識） R4（新）： PR-01, 02, 03, 04 GE-02 LL-01, 02 PS-01, 02, 03 CS-01, 02, 03 IP-01, 02 ● 該当するコンピテンスおよびマイルストーンへの対応 2. 医学知識と問題対応能力（智・仁・勇） level1 3. 診療技能と患者ケア（智・仁・勇） level1 7. 社会における医療の実践と大阪住民の幸福に貢献する力（智・仁・勇） level2

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	AMASOM3136-J1
授業科目名	産業医学 2		
担当教員氏名	◎林 朝茂、佐藤 恭子、宮川 秀男、柴田 幹子（産業医学）、浦上 年彦（ゆうあいクリニック）、山口 浩光（大阪労働局労働基準部）		
開講年度・学期	2025	曜日・時限	その他
授業形態	講義		
科目分類			
配当年次	4年	単位数	0.4

【シラバス情報】

授業概要	産業保健・根拠に基づいた医療（EBM）に関する講義および実習を行う。 非常勤講師による特別講義を実施する。
到達目標	<input type="checkbox"/> 産業保健の歴史や労働衛生管理について説明できる。 <input type="checkbox"/> 職場におけるメンタルヘルスの現状と対策について説明できる。 <input type="checkbox"/> 産業医に必要なエビデンスとなる英語論文の内容を説明できる。
授業内容	学習ガイドを参照のこと。 アクティブ・ラーニング：EBMに関する講義および実習はレベル2、非常勤講師による特別講義はレベル1
事前・事後学習の内容	個別の事前・事後学習については学習ガイドを参照のこと。

成績評価方法	<input type="checkbox"/> 小テスト、レポートおよび筆記試験によって学修達成度を測る。 <input type="checkbox"/> 2/3以上出席しなければ、筆記試験の受験資格はない。なお、30分以上の遅刻は出席とは認めない。 <input type="checkbox"/> 授業中に配布する出席カードに、与えられた問題や課題などについて回答し、提出したものを出席とする。なお、出席を座席表や口頭で確認することもある。 <input type="checkbox"/> レポートの提出は必須で、未提出の場合は筆記試験の受験資格はない。 <input type="checkbox"/> 原則、小テストの成績（5%）、レポートの内容（25%）、筆記試験の成績（70%）で成績評価をする。 <input type="checkbox"/> 合格には、総合して60%以上の成績が必要である。
履修上の注意	態度も評価対象であり、必要に応じて加点・減点する。
教科書	必携 特になし
参考文献	1) 中央労働災害防止協会編：労働衛生のしおり、中央労働災害防止協会、2024 2) 医療情報科学研究所：職場の健康がみえる 産業保健の基礎と健康経営、メディックメディア、2019.12 3) Raymond S.Greenberg 編著：第3版 医学がわかる疫学、新興医学出版、2004.4 4) 中村好一著：基礎から学ぶ楽しい疫学 第4版、医学書院、2020.8 5) 福原俊一著：臨床研究の道標 第2版（上下巻）、2017.7
オフィスアワー	10:00-16:00（会議や出張で対応できない場合があるので、急用でない限り事前にアポイントメントをとること）
教員への連絡方法	Moodle上のメッセージ機能を使って教員に連絡すること
その他	●コアカリキュラムへの対応 旧（H28）：A-1-3)-⑤，A-2-2)-①～③，A-8-1)-①～③，A-9-1)-① B-1-2)-⑥，B-1-3)-①～③、⑦，B-1-4)-④～⑤，B-1-5)-④、⑥，B-1-6)-③～④， B-1-8)-④，B-4-1)-⑬，C-5-4)-② 新（R4）：PR-03-01-01，GE-01-04-01，GE-01-04-02，GE-01-04-04，GE-03-01-01，GE-03-01-02， GE-03-04-04，GE-04-01-05，LL-01-01-01，RE-02-01-01，RE-02-02-01，SO-02-02-01， SO-02-02-02，SO-02-02-03，SO-02-02-05，SO-02-03-01，SO-02-03-05 ●該当するコンピテンスおよびマイルストーンへの対応 1. プロフェッショナルリズム（智・仁・勇）level 2 2. 医学知識と問題対応能力（智・仁・勇）level 2 8. 科学的探究（智）level 2 9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢（智・仁）level 2

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	AMASOM31038-J1
授業科目名	公衆衛生学 2		
担当教員氏名	◎福島若葉、大藤さとこ、加瀬哲男、松浦知香（公衆衛生学）、松尾恵太郎（愛知県がんセンター）、田淵貴大（東北大学）、神谷元（三重大学）、高岡志帆（厚生労働省）、伊藤一弥（大阪公立大学看護学部）		
開講年度・学期	2025	前期	曜日・時限
授業形態	講義		
科目分類			
配当年次	4年	単位数	0.8

【シラバス情報】

授業概要	公衆衛生学や疫学の理論に基づく疾病対策、社会における保健医療政策、健康格差、行動変容といった課題について、行動科学的知見を踏まえた講義を行う。なお、感染症関連の講義については、大阪公立（市立）大学感染症医療人材養成プログラムの感染症基盤プログラム II の内容と連携させている。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 公衆衛生学や疫学の理論に基づく疾病対策の例を列挙できる。 社会における保健医療政策の現状、健康格差の実態、行動変容の方法を説明できる。

授業内容	学習ガイドを参照のこと。
事前・事後学習の内容	個別の事前学習・事後学習については講義毎に指示する。

成績評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1) 考查試験（100%）により評価する。 2) 合格には60%以上の成績が必要である。
履修上の注意	<p>講義は原則としてすべて出席すること（15分以上の遅刻は出席と認めない）。出席は授業毎の小テストによって確認する。</p> <p>出席状況、学修態度が不良の場合は、減点対象となる場合がある。</p>
教科書	特に定めていない。
参考文献	<ol style="list-style-type: none"> 1. 岸玲子編：NEW 予防医学・公衆衛生学 南江堂 2018 2. 医療情報科学研究所：公衆衛生がみえる（最新のもの）、メディックメディア 3. 中村好一著：基礎から学ぶ楽しい疫学 第4版 医学書院 2020 4. 国試対策問題編集委員会、クエスチョン・バンク（最新のもの）、メディックメディア <p>授業で使うことはないが、基礎知識として講義の前後に読んでおくことが望ましい。</p>
オフィスアワー	10:00-16:00 （会議や出張で対応できない場合があるので、急用でない限り事前にアポイントメントをとること）
教員への連絡方法	Moodle 上のメッセージ機能を使って教員に連絡すること
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● コアカリキュラムへの対応 H28（旧）：A-2、A-7、A-8、A-9、B-1、B-4 R4（新）：GE-02、RE-03、LL-01、PS-03、S0-01、S0-02、S0-06 ● 該当するコンピテンスおよびマイルストーンへの対応 <ol style="list-style-type: none"> 7. 社会における医療の実践と大阪住民の幸福に貢献する力（智・仁・勇） level 2 8. 科学的探究心（智） level 2 9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢（智・仁・勇） level 2

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	AMASOM3139-J1
授業科目名	法医学		
担当教員氏名	◎石川 隆紀、谷 直人（法医学）		
開講年度・学期	2025 前期	曜日・時限	その他
授業形態	講義		
科目分類			
配当年次	4年	単位数	1.2

【シラバス情報】

授業概要	<p>法医学は基礎医学ではなく、応用医学として社会と密接なかかわりをもった医学分野である。特に近年、医療事故・医事紛争など医療にかかわる社会問題の増加傾向がみられ、医師としての社会的責務をどのように果たしてゆくべきかを十分に理解・認識しておくことが必要である。臨床医にとって、法医学的視点を持ち、問題意識をもって医療を行なっていくことが重要であると考える。これらの問題について、社会医学系法医学の素養の重要性を、事例をあげて興味を持たせつつ示し、知識向上をはかる。そのなかには将来の実務上に有意な内容を盛り込み、基礎から実地応用へと発展させつつ、法医学を十分理解認識させて行くように心がけながらすすめていく。</p>
到達目標	<p>主要な到達目標は以下の通りである。個別の到達目標については、別途記載する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 法医学の定義を理解する <input type="checkbox"/> 法医学の社会的役割について説明できる <input type="checkbox"/> 死の判定の意義を説明できる <input type="checkbox"/> 死体現象について説明できる <input type="checkbox"/> 人の死の社会的認定の医学的、社会的意義について説明できる <input type="checkbox"/> 脳死の定義、判定条件および判定基準を説明できる <input type="checkbox"/> 個人識別および物体検査の目的について説明できる <input type="checkbox"/> 医療を取り巻く法的問題について説明できる <input type="checkbox"/> 損傷の種類とその成傷機転について説明できる <input type="checkbox"/> 窒息・溺死について説明できる <input type="checkbox"/> 交通事故損傷について説明できる <input type="checkbox"/> 集団災害について説明できる <input type="checkbox"/> 異常環境による死亡（熱中症、凍死、火災死など）について説明できる <input type="checkbox"/> 内因性急死とその問題点について説明できる <input type="checkbox"/> 死後画像検査の利点と欠点について説明できる <input type="checkbox"/> アルコール・薬毒物が人体に及ぼす影響について説明できる <input type="checkbox"/> 被虐待児症候群・老人虐待・嬰兒殺・墮胎について説明できる

授業内容	<p>学習ガイドを参照のこと。 アクティブ・ラーニング：レベル1</p>
事前・事後学習の内容	<p>個別の事前学習・事後学習については講義ごとに指示する。</p>

成績評価方法	<p>(1) 授業後の小テストおよび試験によって各単元の学習達成度を測る。 (2) 原則、試験 80% ならびに小テスト 20% で成績評価する。 (3) 合格には、総合して 60% 以上の成績が必要である。</p>
履修上の注意	<p>講義中に行われる小テストも評価対象であり、必要に応じて加点・減点する。</p>
教科書	<p>必携教科書の指定はない。</p>
参考文献	<p>1) 現代の法医学 永野耐造・若杉長英 編（金原出版） 2) エッセンシャル法医学 高取健彦 編（医歯薬出版） 3) 死体検案ハンドブック 近藤稔和・木下博之 編（金芳堂） 4) 臨床と血液型 澤口彰子・溝口秀昭・清水勝 編（朝倉書店） 5) 死亡診断書・出生証明書・死産証書記入マニュアル（厚生統計協会） 6) NEW 法医学・医事法 勝又義直・鈴木修 編（厚生統計協会）</p>
オフィスアワー	<p>10:00 - 16:00 （会議や出張、解剖業務などで対応できない場合があるので、急用でない限りアポイントメントをとること）</p>